

かがやきながの ニュース

通常総代会スローガン

あらゆる人が共に生きる地域・社会を創ろう



平和を願って

東信・おもしろ倶楽部主催の「あの夏を語る」。今年の戦争体験語り手は、樺太（現サハリン）生まれの佐藤愛子さん（佐久市）。講演に先立ち、平和を願う千人針に糸目をつないでくれました（写真中央）。

本部・北信地域センター

☎ 381-0024
 長野市南長池 761-3
 (本部) ☎ 026-263-2386
 (北信) ☎ 026-217-3601

中信地域センター

☎ 390-0814
 松本市本庄 2-3-18
 ☎ 0263-50-8439

東信地域センター

☎ 384-0414
 佐久市下越 612-1
 ☎ 0267-78-5070

南信地域センター

☎ 399-2102
 下伊那郡下條村陽阜 719
 ☎ 0260-27-3588

テーマ

知を力に!

一人ひとりが学び、自ら考え行動する協同組合人を目指して

①「学び」を中心に置いた活動を繰り広げます。

- 社会保障制度の変遷、今後の動向を全組合員が学びます。
- ・ 社会保障の変遷と今後を分かり易く伝えるように検討します。

- ・ 管理者会議、事業所会議で社会保障について学びます。

- ・ 総代の集い等で学習会を行ないます。

○ 学んだことを外に伝える活動を行ないます。

- ・ ホームページで高齢協の主張を発信します。

- ・ ニュース手配り組合員に配達者から発信します。

- ・ 自ら周りの人に伝える活動を行ないます。

② 就労組合員は協同労働の原則的な運営を目指します。

- 各事業所で協同労働の「ものさし」作り第一段階の取り組みを開始します。
- ・ 各事業所で第一段階のワークショップを行ないます。

テーマ1…今の職場はこれまで経験してきた職場とどう違うか

テーマ2…今の組織をどう感じているか

○ 労働環境改善検討を業態毎に検討します。

- ・ 現状の到達点を明確にし、自分たちの事業所経営を検討します。

- ・ 業態別に論議し、労働条件・労働環境・重点施策等の検討を行ないます。

- ・ 全体課題、業態課題を区分して検討します。

- ・ 介護事業所ではキャリアパスの運用を開始します。

- ・ 最低賃金引上げに伴う対応並びに経営を守る視点で、積立増資活動を行ないます。

③ 集う場づくり、よらず相談の場づくりを進めます。

○ 気軽に立ち寄れる「集う場」開設を、各事業所を拠点に進めます。

○ 専門的な相談会の実施の他、集う場等で出される生活課題等を集約し、まとめます。

④ 地域のあらゆる組織・団体と繋がりを深め、地域課題の解決に取り組みます。

○ 地域の方々と創るまつり等を実施すると共に、さらに関係を強化します。

(地域のお祭りにも積極的に参加し、地域活動に貢献します)

○ 自分たちの事業所が貢献できることを地域に発信します。

(待ちではなく、出向く活動を強化します)

○ 地域の人々や組織・団体と共通課題解決に向けて協働します。

⑤ 地域に、自らの周りに発信すると共に、仲間づくりを進めます。

○ 高齢協の意義を伝える活動を行ないます。

○ 年間目標を念頭に集中的に拡大行動を行ないます。

○ 事業を利用していらっしゃる方々に積極的に加入をお誘いします。

※年度方針で決めた取り組みで、実践出来ていない計画の具体化実践に取り組みます。

	東 信	北 信	中 信	南 信	合 計
仲間づくり (人)	28	150	30	18	226
員内利用率 (%)	—	50	60	80	63.33
積立増資 (千円)	226	1,600	目標設定せず	100	1,926

各地域センターの方針・取り組み

東信

- 1、「共に学ぶ活動」を行ない、事業と活動、月間の取り組みを推進します。
- 2、「安心して暮らせる地域ニーズアンケート」に取り組みます。
- 3、「学んで語ろう会」（6/25開催）でのワークショップで出された意見のまとめをふまえ、協同労働についてさらに学び、深めます。
- 4、「ひろば秋まつり」（10/6）の成功に向けて、準備、宣伝活動などの取り組みを強化します。
- 5、「長野県高齢者大会」ボランティア全国フォーラム」をはじめ、地域での催しについて、依頼された役割を果たすとともに、参加者の確保に向けて取り組みます。
- 6、仲間づくりと経営基盤の強化

南信

事業活動の中心は下條村です。序々に事業基盤は整いつつありますが、本来の生協の存在意義を考えると課題は多くあります。しかし、上期にはNPOとしての生活支援サービスがスタートし、下條村図書館の分館としての「小さな図書館」の取り組みも進みました。また、伊那市を中心に活動する「どっこいどっこい太鼓」クラブは結成から2年が過ぎ、10名を超えるメンバー各々が自分たちのペースで楽しんでいます。

今年度の秋の組織強化月間においても、こうした「小さな活動の積みかさね」を大切にしたり取り組みを行ないます。組合員どうしの顔が見える関係を目指した行事の企画や既存の活動のさらなる可能性の追求、あるいは地域のお祭や行事への積極的な参加を行ないます。

中信

「地域まるごと支え合い」「安心して住み続けられる地域づくり」「生協組織基盤の強化」の3つの視点を持ち、「それぞれのつながりを活かし、地域に、生協事業のご利用者に、高齢協を広く知らせよう！」をテーマに身近な課題から組織強化月間に取り組みます。

高齢協は地域での支え合いと暮らしに関わる要求・要望を事業と運動を通じて実現する組織です。組合員の暮らしをより豊かなものにするため、それにふさわしい生協の規模と地域から身近で頼りにされる生協組織をめざし、組合員の皆さんのお力も頂きながら、組織強化月間の取り組みを進めていきたいと考えています。



北信

- 1、組織強化目標は組合員数月間末で150名を達成します。
- 2、組合員・地域向けの学習会を企画し、地域のことや地域で出来ることを学びます。
- 3、寄り場を増やすため、ボランティア育成に努力します。
- 4、「かがやきまつり2018」を10月7日（日）に開催。地域の方や組合員との交流の場として「こども食堂」も位置付けます。
- 5、事業所会議では統一テーマで学習をします。
- 6、全職員を対象とした認知症の方との接し方の研修会を行ないます。
- 7、「今年度事業計画」及び「私たちの事業所のよい仕事目標」の進捗状況を確認します。



憲法は誰のためのもの？

憲法についてみんなで考えるために、元理事の本田光子さんに書いていただきました。

この原稿を書き始めていたら、小学4年生の孫がそばに来て「ばあは何をしているの？」「憲法」って何？」と質問してきました。わたしは、「困ったな」と思いながら、「憲法」はね、あなたやばあ、パパやママ、近所の人、つまり日本人たちの命や暮らしを守るためのとても大切な法律だよ」と言いました。

あなたは、日常生活の中で憲法の存在意義について考えたことがありますか。そういう私も、大学の時に「憲法9条について」という課題が出されて論文を書いたことを思い出します。その時教授が、「憲法9条には『日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際的紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。この目的を達成するため、軍隊は持たない。国の交戦権も認めない』と記されている。このような憲法を持つ国は世界のどこにも存在しない。憲法9条は日本国の宝であり、世界に誇れる条文として大切に護っていかなければならない」と語ってくれました。それ以来、憲法の話が出ると、その当時憲法のことを懸命に学んだことが私の頭の片隅をよぎります。にもかかわらず、「憲法を護れ」の運動に真剣に参加していない自分のことを反省しながらこの原稿を書いています。

それでは、「憲法」って誰のためのもの？と考えてみませんか。現憲法前文は国民主権を謳い、9条においては武力によらない平和という国を維持することが、また、11条では「基本的人権」、13条で「幸福追求権」、14条「法の下に平等」、21条では「思想表現の自由」、25条では「生存権保障」が国の義務であるなど、様々な国民の権利・義務が記載されています。つまり、国は、国の責務として、平和を護り、国民の生命・安全を保障し、生活・自由などの幸福追求権を護ることが国の義務であるとしていっています。安倍首相は、憲法は権力者を護るためのものであり、権力者が自由に改憲を唱えていいものだど勘違いしているのでしょうか。これは許せません!!

私たちには、子供や孫たちがどんな世界に生きるのか、責任があると思います。この思いを強く胸に抱いて生きていきたいと思っています。

東信



「組合員の集い」で確信

東信地域センターは7月23日（月）、「組合員の集い」を開催しました。開始時刻の30分ほど前から組合員さんが集まってきます。早くからの来場には、抹茶を振る舞いました。

組合員の小山さんの司会で始まった集いは、宮澤副理事長の挨拶に続いて、メイン企画である、鷹野禮子さん（社会福祉法人・湧泉会小雀保育園理事長、NPO法人チャイルドライン佐久理事長）の講演です。「いま子どもたちはチャイルドライン佐久の取り組みから見えてくる子どもと親たちの現状」と題してお話をいただきました（写真）。



講師に合わせて手遊び

子どもたちの置かれて

いる現状と子どもたちへの接し方、対応の仕方について経験に裏付けられたお話は、参加者に自信と確信を与えました。

その後、渡辺センター長より、第20回総代会の報告がありました。会場外のホールでは、かごサロンのみなさんの作品を展示しました。

「迷いましたが友達に誘われて参加しました。鷹野先生のお話では、子どもたちが今何を求めているのか聞きました。防犯ボランティアで小学校の校門に立ち、子どもたちと接する機会がありません。対応の方法や子どもへの心が分り勉強になりました。抹茶サーブスもとてもおいしかったです」との感想が寄せられました。

集いには、組合員のほかに地域の保育園の先生たちの参加もあり、会場が狭く感じるほどの42名に参加でした。

■子ども食堂く2つの企画

7月30日 子ども食堂

子ども6人 大人13人

8月5日 千曲川の川虫調べ

子ども4人 大人11人

■ミニ戦争展、あの夏を語る

8月18〜19日

北信



地域と連携して子ども食堂

子ども食堂という用語が結びつけられるのが、貧困という言葉です。しかし私たちが子ども食堂をやってみようと思ったのは、子どもたちと関わってみたいという素朴な気持ちからでした。事業所がすぐ近くに大豆島小学校があり、子どもたちの声や姿は日常的に見聞きしていたので、最初からとても身近な感じがしていました。

私たちが意識の上であまりハードルを上げずにことを進められたのは、二つの理由があります。一つは大豆島地区の区長さんや老人会のみなさんと、わりに顔見知りだったということがあります。地域の会合で使う「折」を年度末などによく注文をいた



中学生はいっぱい食べてくれました

だいて、お会いするところが多かったです。もう一つの理由は、その「折」を

配達する場所として、この地区の公民館がとて多く、そこにそばん教室などで子どもたちがよく集まっているのを見て知っていたからです。私たちの事業所からも車で1分ぐらいの場所なので、子ども食堂をやるとしたらここしかないと思っていました。

実施にあたってはまず公民館がある区の区長さんに連絡を取り、私たちの計画をお話して許可をもらい、場所を確保しました。区長さんと相談してチラシを回覧板で配ってもらうこともお願いしました。

さて当日はと言いますと、設定の50人を超えてしまったらどうしようかと本気で心配していたのですが、その日は児童館のお楽しみ会があったとかで、小学生が4人、中学生が4人、区長さんなどの関係者が7人ということで予想を大きく下回ってしまいました。その分子どもたちとトランプをしたり、みなさんとお話もできて、子ども食堂の感触をつかむことにはできたかなと思います。

2回目は事前のリサーチをしっかりとやって、「うれしい悲鳴」をあげてみたいと思っています。つくしの里大豆島 田中節子

中信



灼熱の甲州（山梨・甲府）

私、物心ついてはじめて38度以上の気温を体験しました。とにかく甲府は暑い。この度も暑い甲府に第二地区の9人の仲間でお邪魔しました。

何時も、芽ぶきの会のバスハイクは心おだやかに楽しく1日を過ごすことが出来ますが、この度の桃狩り、食べ放題、1人や2人で行っては、あの楽しさは味わえないなと思います。仲間とワイワイしながらついつい、つられていくつも食べてしまいます。仲間の1人がおみやげで買った



センターだより

黄桃がとてもおいしくてもっと買ってくれば良かったと、もう一度行きたいと言っています。

響きの里という食事処に入っ
て、ホールの大きさは、松本にはない大きさで、さすが甲府。冷房がきいていて生き返る食事は、本場のほうとう御前。とても美味しかったです。

太鼓演奏が聴けなかったのが、ちよつと残念でした。

信玄餅の桔梗屋は、何時も賑わっている。昔から変わらない作り方で今も盛況です。

信玄の資料館の前で一同の写真撮り、甲斐善光寺、武田神社を参拝し、一路松本へ。

事故もなく、皆さん無事で、良かったです。

暑い中、北に南に日本列島の災害の後始末に働いている方に申し訳なく思いつつ、長野県、ことに松本は、何事もなく平穏でのんびりバス旅行できましたことに感謝します。かがやきの役員の皆様ご苦労さまです。

何時も、バス旅行に誘っていただき有難うございます。今後とも宜しく願います。

第二地区ボランティア部

根本二三子

南信



「みんなの家下條」二題

ステキなテーブルクロスが完成！
一片が10cmほどの小布を100枚以上縫い合わせたパッチワークのテーブルクロスです。デザインのセンスも抜群で、人がスッポリ隠れるほどの大きさです。



この作品はみんなの家下條の利用者さんが、週に数回通われる際に時間を見つけてながらコツコツ製作したものです。完成までに2カ月を要しました。上々の出来栄えに、利用者さんもこの上ない喜びの様子でした。

「前はよく縫い物をしたなあ」
「楽しみなながら出来るのが一番大切」
「みんなの家では好きなことをさせてもらえるからねえ」
「さて次は何を作るかな」
と嬉しそうにお話されました。
そんな利用者さんの言葉は職員にとって最高の元気の素です。

花いっぱい 笑顔いっぱい
今年も下條村が主催する「花いっぱい運動」に参加しました。今年の花は夏定番のサルビアです。下條村の沿道を赤と白のサルビアが彩りましたが、例年になく猛暑のためか、早々に萎れるサルビアも多く見られたようです。それでも下條村を訪れる人たちの目を存分に楽しませてくれました。

私たちもみんなの家の周りを、村から届けられた200株のサルビアで彩りました。どこか殺風景な玄関先も華やかに変身しました。燃えるような真っ赤な衣をまとったサルビアの花に、来所される利用者さんも思わず明るくなります。

サルビアという名前はラテン語の「健全な」「安全な」「治癒」などが語源となっているそうです。みんなの家下條も利用者さんや地域の皆さんにとつて、そんなサルビアの語源のような存在でありたいと思います。



かがやき文化祭

かがやき紙面文化祭にご応募いただき、ありがとうございました。
寄せられた作品を紹介します。 (「かがやきながの」編集委員会)

川柳

安倍首相 君はギャングの まわしもの
働けど 家事労働は 無収入
ありゃだめだ アベ(安倍)の政治に 街の声

安曇野市 轟 咲子

民主主義 そのけそこのけ 安倍が行く
9条の うしろに隠す 徴兵制
徘徊と 近所で噂 散歩やめ

佐久市 宮澤 文仁

鏡見る まあまあとして 元気出す
無冠でも 優しい夫の いる余生
草だけは 暑さに負けず ナス隠す

長野市 古岩井かおる

このりんご うまいと鳥も 知っている
前向きに 向きにと粘る 下り坂
悩みには 際限がない 寝てしまう

長野市 藤田みゆき

俳句

百日紅 大樹となりて 天に咲く
蝉時雨 産土の杜 うめつくす
万緑や ローカル線の 国訛り

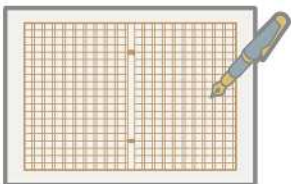
須坂市 黒岩ひさ江

秋咲きし キンモクセイに 雪がふる
紅梅の 紅映えわたる 日和かな
幼な顔 小さきときの 笑顔かな

千曲市 北沢 正志

去年のまま 置かれて夫の 夏帽子
虫干しの 着る人のなき 袖かな
草茂り 夫の労苦に 謝する日々

長野市 北村 道子



自然界を侮るなかれ！

辺野古の海には多種多様の魚介類が生息している。

お互いに自分たちのテリトリーを守りながら共生し、

種の繁栄につとめ未来に繋げようとしている。

あの巨体のジュゴンさえ、そんな自然界の掟は知っている。

自分たちだけの生存権を主張する身勝手な人間たち。

その行動は決して許されるべきものではない。

私たちは自然界で共存共生しているのだから……。

南佐久郡 吉田 敬子



権堂七夕祭り出展 「わわちゃん」
たわわ利用者の作品



貝人形「猫」 長野市 武内真由美



長野市 高橋 敏



春の家利用者の作品



パッチワーク



長野市 平林佑子

クラフト手芸

私からの伝言

ふたたび被爆者をつくらないために、命の限り叫びつづける(1)

藤森 俊希さん

昭和19年(1944)広島県広島市牛田生まれ 72歳

爆心地から23キロ地点で母とともに被爆。

高校卒業後、東京の大学に入り在学中に就職。定年退職時に、妻の強い希望で長野県茅野市に移住。現在、長野県原爆被害者の会(長友会)会長および日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)事務局次長。子ども2人。

いまから72年前、広島のがが家は祖父・父母・9人兄弟姉妹の12人家族でした。父(当時45)は筆筒などを作る家具製造業を営んでいました。たくさん働いていた弟子たちは、太平洋戦争の戦火が強まるにつれて戦場に引き出され、人々の生活も家具どころではなく、家具製造の生業が成り立たなくなり、父は国鉄に転職しました。家具製造業と国鉄は似やうもないのですが、外部発注になる駅舎の修繕など、あれこれのほとんどを国鉄内で処理しており、父は建築区で働きました。

1945年8月6日 広島

晴れわたった8月6日朝、わたし(1)は体調を崩し、母(41)に背負われて病院へ行く途中でした。神田川(現在は京橋川)の土手の上を歩いてきた母がにぶい爆音を聞き、空襲かと身構えた瞬間、閃光が走り、猛烈な爆風が襲ってきて母子とも土手の下に吹き飛ばされました。偶然にも爆心との間に二階建て民家があり、熱線を直接受けることは免れました。

大変なことが起きたことに気付いた母は、わたしを抱いて土手の上にあがりました。市中心部の方を見ると煙と雲が空を覆い、一面火の手が上がっています。煙と炎の真ん中には娘たちが通う市立第一高等女学校がありました。四女・敏子(13)は女学校一年生。学徒動員で市の中心部で建物疎開にあたってはるばるでした。

炎は市中心部だけではありません。自宅の近くも炎があがっていました。母は、わたしを抱いてどこをどうさまよったか牛田山に逃げました。自宅にいた祖父(76)と電休日休んでいた女学校4年の三女・操(15)は爆風で倒壊した家の下敷きになりました。2人は傷つきながらもなんとか脱出し、炎に追われ山に逃げました。

広島駅の近くの国鉄建築区に出勤していた父と、通信局に勤務していた長女・淑美(20)は牛田山に戻ってきました。船舶司令部に勤めていた次女・康子(18)と敏子が戻ってきました。小学生だった長男(10)と次男(7)は広島市から遠く離れたお寺に疎開し、5歳になった双子の五女と六女は

広島市から離れていた母の実家に疎開していて難を免れました。

翌朝、康子が山に帰ってきました。自宅は全焼し戻ることができません。家族も周囲の人たちもみんな山に避難してきました。

康子の無事を確認し、父と長女・淑美が妹・敏子を探しに山を下りました。市内は、どこも瓦礫の山と血にまみれた被災者と死体と…、生き地獄でした。焦熱を避けようと川に飛び込んだ女学生の死体がびつしりと並んだ川岸もありました。貯木場は、浮いた死体で埋まっていました。翌日も次の日も…、ついに敏子は見つかりませんでした。

生死をさまよい生き延びる

わたしは被爆で頭部が腫み、目、鼻、口だけ出して包帯でぐるぐる巻きにされ、周囲で息絶えていく大人と同じように、間もなく死ぬと見られていました。1歳のわたしが死線をさまよいながら、焼け出された地で生き延びたのは奇跡としか言いようがありません。生き延びたとはいえ、病弱なわたしは、小学校に入学するまで、母に背負われて育ちました。

小学校に入学しても熱を出したり、風邪をひいたり、学校を休むことが多く、ひ弱な小学生でした。当時、学年末になると渡される賞状のなかに「皆勤賞」というのがありました。わたしは一度も受賞したことはありません。

(続く)

(2016年9月記)

簡単料理で元氣アップ

水ようかん

(甘さひかえめで上品な味わい)



材料(8人分)
 かんてんクック 1袋(4g)
 水 400ml
 こしあん 600g

作り方

- ①鍋に水とかんてんクックを入れてかき混ぜながら火にかけて沸騰したら火を弱めて、さらに2分ほどかき混ぜて溶かします。
- ②こしあんを3回くらいに分けて加え、なめらかになるまで混ぜ合わせ、火を止めます。
- ③あら熱をとり、容器に流し入れ、冷やし固めます。

(東信 浅沼しげじ)

第20話「人生最後の自宅入浴」(南信 今村洋子)



「えっ!Uさん(65才 男性)をお風呂に入れるのですか?」

癌の終末期を自宅で過ごすために退院されたUさんが強く入浴を希望されました。しかし、すでに入浴に耐える体力はどう見てもありません。妻は戸惑いながらも「お風呂が好きなんだったので何とか入れてやりたい」と言われます。

主治医と相談しました。
「何かあつたらすぐ往診しますから、入れてあげてください」と許可が出ました。善は急げといいますが、いつ急変するかもしれません。

前に痛い経験がありました。やはり癌の末

期を自宅で過ごしていた方でした。この方はまだ入浴ができる状態にもかかわらず、ご本人が拒否していました。ところが死期を悟った時に入浴を希望されたのです。

当時、訪問入浴を依頼してから早くも2、3日かかりました。その日の午後に入浴車が来るといふ朝、全身黄ダンになり、発熱して救急車で入院し、まもなく息を引き取ったのです。

若い看護師は「入浴中に急変したら自信がない」としり込みしています。管理者の私と経験ある看護師と二人で入れることにしました。その日、嫁いでいる娘さんも帰ってきてお父さんを見守ってくれることになりました。

背もたれのあるシャワー椅子に抱えて乗せ、風呂場に連れて行き、まず全身をサッと洗いました。両足を浴槽に垂らし、そのまま二人で抱えて浴槽に立たせ、そういつと沈めました。

「うーん。気持ちいい。」Uさんの満足した笑顔が見られました。
「お父さん。良かったね」

妻と娘さんは涙を流して見えています。脈を計りながらUさんがもう上がると言うまで入っていたいただきました。ものの5分くらいだったかもしれませんが、とても長く感じました。

それから1週間後に、ご家族に見守られながら自宅で息を引き取りました。

ケースから学ぶ

癌の終末期を自宅で過ごすことが普通になりました。

癌の痛みを飲み薬や座薬や皮膚に貼るパッチでコントロール出来るようになったからです。そして、訪問看護や往診で医療的ケアを自宅で出来るようになったからです。

後1週間の命と言われたものの、自宅療養になってから3カ月の生を得た方もいます。反対に退院して2、3日でまた緊急入院して息を引き取られた方もいます。

でもどなたもお家に帰った時は安らかでうれしそうなお顔をされます。

訪問看護の援助を受けながら、勇気を持って自宅での生活をさせてあげてください。

理事会報告

8月4日開催

◎9月24日開催のやすらぎ友の会合同慰霊祭(協同墓)企画を確認しました。

◎第20回通常総代会のまとめを参加者の感想を中心に行ないました。

◎育児介護休業等に関する規程を改訂しました。

◎長野市三才で行なわれる「ウエルカム三才児まつり」の後援を確認しました。

◎第1四半期の事業・運動のまとめを行ないました。(下表)

順調に推移していますが、内実は現場での人員不足の中、介護事業が高齢協全体を支えている構造です。引き続き人材確保を重点に進めます。

〈運動面〉

◎「安倍9条改憲N

◎「憲法を生かす全国統一署名」は多くの組合員さんの協力で、805筆の署名が集まりました。

◎平和の課題では「原水爆禁止国民平和行進」に昨年を上回る46名の方が参加し、松元ヒロ「憲法を考えるライブ」には165名の入場がありました。

◎これからも平和・暮らし・社会保障など、私たちの身近な課題を中心に運動を行なっていきます。

事業高	181,213千円
(予算比)	103.7%・昨年比 105.8%
経常剰余高	8,179千円
(予算比)	506%、昨年比 143.9%

クロスワードパズル

家族力を合わせてチャレンジしよう

今号の締め切り 10月10日(水) 必着

1 A	2	3	4 C		5
6					7 B
8				9	
				10 E	11
	12		13		
14		15		16	17
18 D					19

前号の正解 (131号) なつまつり

1 な _A	—	2 す		3 ば	け	4 つ _D
い		5 い	あ	い		く
6 と	7 れ	か		8 す	9 が	も
	10 お	ど	り _E	ぐ	い	
11 え	ん	ろ		12 り	あ	13 す
べ		14 ぼ	さ	つ		き
15 つ _B	ご	う		16 ふ	り	ま _C

正解者：14名 当選者（3名）は小山有一さん、井出京子さん、阿部たか子さんでした。おめでとうございます。クオカード500円をお送りします。

〈タテのカギ〉

- 9～10月に吹く風のこと。朝ドラヒロインの師匠。
- 長野県が生産2位の果物。
- 絵を描くときに使う。クレヨンとこれがあればオーケー。
- 人間のこころを強く打つと心配。精密検査が必要である。
- 勤め人のお昼を、こう呼んでいる。
- サザエのこれは絶品。夏の海の定番である。
- ことしの〇〇〇〇目標は前年比2割増し。利益増を目指そう。
- オフィスを〇〇〇したので、案内状を出さなければ。
- 液体が気体になる現象。
- 病気がケガから人を救ってくれる人。国家資格が不可欠。
- 砂浜海岸に対して、岩石海岸のこと。魚介類の格好の生息地。

〈ヨコのカギ〉

- 感謝のことば。口に出して言いたいもの。
- 土曜の前の日。某テレビ局の番組は〇〇〇〇プレミアム。
- 何も入っていない状態。
- 水は水素と酸素の〇〇〇〇〇。元素が化学反応を起こして新たな物質が…。
- 頭に被る衣類。ファッションの一種でもある。
- 大木や岩を大ぜいで運ぶときにうたう仕事歌。祭りの山車(だし)を引くときなどにも歌われる。
- 物事を一定の形に定めること。法令の個々の条文。
- 勝負に勝つためには、〇〇〇が大事。気持ちを高揚させよう。
- 心が引かれること。心を動かされることでもある。
- 靴・下駄・草履など履物のことだが、すし屋などではイカの足のこと。

〈応募方法〉

☆タテ、ヨコのカギを解きながら□に文字を埋めていき、A～Eを順番に並べて言葉を完成させてください。それが答です。応募いただいた正解者の中から抽選で3名様にクオカード500円をプレゼントします。
☆答、氏名、住所とともに日常の出来事や「かがやきなごのニュース」へのご意見・ご感想などを書き添えて、郵便、ファックス、Eメールでご応募ください。
宛先 〒381-0024 長野市南長池 761-3 長野県高齢者生活協同組合「クロスワード」係
fax 026-263-2385 Eメール kagayakinews@nagano-koureikyo.jp

2018年3月31日、米や麦などの「主要農作物種子法」が廃止されました。今まで国が管理してきた種が民間に任せられるようになるか――

○種子の価格の値上がり ○種子品種の多様性が失われる ○多国籍企業の影響が強まる（遺伝子組み換えも）――様々な懸念が考えられます。

みなさんに協力いただいた「種子法に代わる公共品種を守る法律制定を求める」署名260筆を届けました。

その後、食料と健康を守る運動連絡会の仲間と、長野県議会に対し、「主要農作物種子条例の制定」を求める請願書を提出しました。その結果、請願は7月6日に採択されました。

県議会で請願を採択

主要農作物種子条例

読者投稿



友達の来訪に感謝

義母が先に逝って、義父はしばらく何も手がつかない様でしたが、日中一人きりの義父を昔からのお友達が頻繁に訪ねてくれたので次第に明るさを取り戻しました。会社勤めの私たち夫婦にはとてもありがたかったです。

(阿部たか子さん)

人との交流で健康に

「かがやきニュース」6ページに「健康寿命を伸ばすには、外へ出て人と交流することが有効だ」と書いてあります。そのように行動したいと思いました。

(池田敬さん)

でも頑張ろう

先日、孫の家に行った時、カゴ編みに行っていた時に「ふくろう」を作ったものを夏休みの工作に私も作りたいから教えてと頼まれました。むずかしいよ、できるかな、でも頑張ろう(峯村艶子さん)

戦争ほどの悪はない

8月は終戦の月。何年経っても

戦争のことは忘れられません。夫も15才で志願兵として横浜の兵学校に入りました。特攻隊員として訓練を受けていましたが、出撃する直前に終戦となりました。住んでいた町が米軍の空襲を受けた時、B-29のパイロットが笑いながら攻撃していたのを見たのが忘れられないと言います。戦争より悪い悪があるでしょうか。

(古岩井かおるさん)

カルチャースクールを受講

「私からの伝言」は、奇跡的に生還した戦争体験と、戦後も苦難の生活を過ごして来られた原田要さんの、若い人たちに訴える平和の大切さの伝言でした。このような戦争体験を語る方は少なくなりましたが、記録を残しておくことがとても重要です。中条のホットな地域づくり」を読み、住民同士で支え合う組織をつくる必要があると実感しました。

(小山有一さん)

フィリピーナも誇らしく

御嶽海優勝 長野県に元氣と喜びをあたえてくれた。彼は25才。生まれた頃、アジアから多くの女性が日本にやってきて結婚した。

保育園のおたよりが読めないといわれ、日赤乳児院と松本で初めて日本語教室をはじめた。その頃私は、木曾の日本語教室を訪問している。もしかしたら彼のお母さんのマルガリータさんとも会っていたかもしれない。松本では読み書き、会話の学習を終え、社会参加してしっかり生活している人が多し。木曾でも地域の人たちに支えられ伸び伸びと育ったのがうかがえる。日本在住のフィリピーナとその子どもたちも誇らしく思っているのでは。

(小林美代子さん)

誘われて研修会に参加

東信地域センターで学習研修会があり、猛暑日だと言うし、どうしようか迷いましたが、友達に誘って頂き参加させてもらいました。講師の先生は市内保育園の理事長先生で「子どもたちは今何をとめているか」の実践と体験による具体的なお話を長い時間、お立ちになられた話していただきました。有り難うございました。

(箕田理恵さん)

★仮名をご希望の方は、ペン

ネームを添えてください。

長野県高齢協組合員数

(平成30年8月30日現在)

全	県	3,916人
北	信	2,347人
中	信	740人
東	信	612人
南	信	211人
その他		6人

つるやき

今夏は「命に危険を及ぼす暑さ」となり、全国各地で体温を超えるほどの気温になっています。もうエアコンはぜいたく品ではなく生活必需品となる中で、小中学校の教室へエアコンを設置する方向で議論が起きています。

熱中症は重症化すると後遺症や体に大きなダメージを与えます。特に成長期の子供の体に与える負担は想像以上のものと思われま。いままでは「予算がない」「子供の根性・忍耐が足りない」とエアコンの効いた部屋で議論していたのでしょうか。

将来の宝、大切な存在である子供たちを守るといいながら実態は異なります。子供が安心して育つ社会を目指し一人ひとりができる行動をしましょう。

内田信幸

元気な地域には秘密がある (その9)

小さいけどステキな下條村 (上)

根付いている住民同士が助け合う心

入登山神社氏子総代・田本 父正人

南信の小さな村

権現山から湧き出た清らかな岩清水の産湯につかり、早いもので75年の歳月が流れました。「元気良く、前向きに、心はいつも晴々と」をモットーに下條村と共に歩んできました。

下條村は長野県の南端で下伊那郡のほぼ中央に位置する自然豊かな村です。自然災害に強く、住み良い安全安心な村で、心和やかで思いやりのある人たちが暮らします。

昭和元祿のころは養蚕で栄え、若者も多く、多いときには6500人も村民で賑わいました。商店も多く、楽しい毎日を過ごした思い出があります。しかし、いつの頃からか徐々に賑わいも消えていきました。少子高齢化や人口減少が問題となり、限界集落とか消滅都市という言葉が使われるようになり、下條村もよそごとではなかったと思います。

下條村は奇跡の村

平成に入るところから下條村は知る人ぞ知る「奇跡の村」として全国的に脚光を浴びることになりました。村の財政状況は常に全国でもトップクラス。出生率も同様に高い数値を保っているのです。

下條村はその70%が山林であり、条件



3階建ての茶色の建物が「若者定住促進住宅」

のは、人々の結びつきや「お役」という仕組みがあったからです。これは多くの地域でもやっていることですが、草刈や清掃などを住民の共同作業でやる取り組

(つづく)

的には決して恵まれていないとは言えない小さな自治体です。そんな村が「奇跡の村」と呼ばれるようになったのは、徹底した行政改革や若者定住策、子育て支援などの諸政策が功を奏したこともありますが、一番は元々下條村に根付いていた住民どうしの助け合い、共助の心があつたから成し得たことです

お互い様にお節介

村には資材支給制度というユニークな制度があります。生活道路や水路などの小さな修復は村民が自ら工事するというものです。村(行政)は資材を支給するだけ。何でもかんでも行政にやってもらうのではなく、村民も汗を流そうという取り組みです。これが村の財政改革に役立ったの言うまでもありません。

どんな取り組みにも一長一短があります。都市部では受け入れ難い制度かもしれない。下條村でこれが成立した



資材支給制度で村民が工事

みで、下條村には深く根付いていたので、無償であっても自分たちのことは自分たちでやる。お互い様の気持ちを大切にする。そうした共助の精神が自然と根付いていたのが下條村だったのです。

「ここには一人暮らしの高齢者がいる」とか「最近元気がないなあ」とか顔の見えるお付き合いがあります。「ちよつと様子を見にいくか」「病院にでも連れて行ってやるか」とか、昔ながらのお節介もたくさんあります。

最近、「地域包括ケアを実現しよう!」なんて言葉をよく聞きますが、下條村では昔から当たり前にやってきたことです。昭和の大合併も平成の大合併も単独で歩むことを選択してきました。「小さいからできること」を大切にしてきたからこそ、今の下條村があるのです。

俺も一杯飲んでえなあ

お祭や文化行事は区単位で開催されるものが多くあります。平成のはじめごろ、私は区の代表をやっていました。ある会合の場で、知人に声をかけられました。「運動会やスポーツ大会に選手選ばれる人はいいなあ。楽しんだあとはいつも一杯飲める。同じ区費を払っているのに不公平だよ」。冗談交じりの何気ない会話でした。でも、その会話がきっかけで、新たに始める「下條村童謡唱歌の会」へとつながっていったのです。